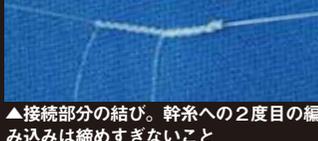
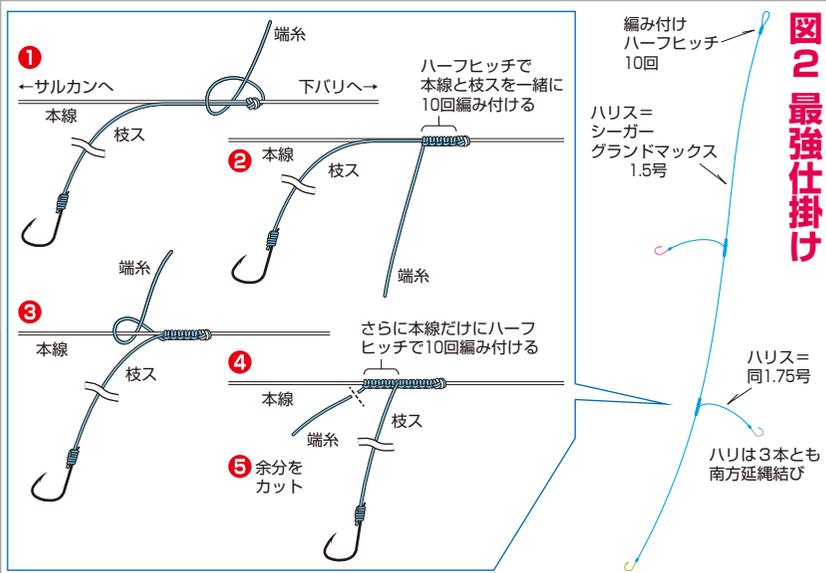


▲まさに経験が物を言う、鈴木さんの仕掛け作りは驚くほど速い



▲8の字結びをダブルにすることで強度がワンランク強くなる



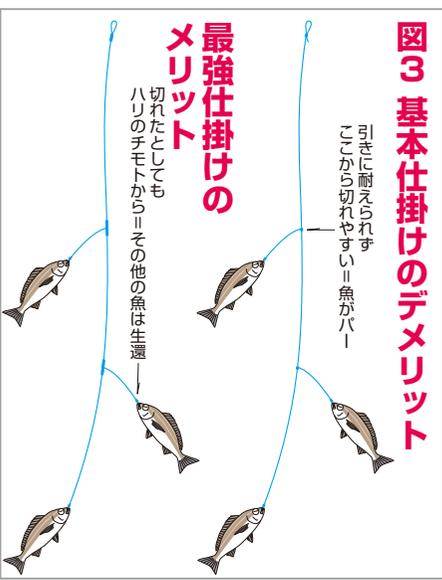
▲接続部分の結び。幹糸への2度目の編み込みは締めすぎないこと



▲カラーハリスはすべて上から白、ピンク、緑。こうしておけばオマツリしたときなど便利



▲深場釣りの仕掛けと同じ手順で掛け棒に巻いて収納。仕掛けも取り出しやすいし、糸グセも付きにくい



### 図3 基本仕掛けのデメリット

「この仕掛けだと食いは変わらないし、たとえ3尾掛りで切られたとしても全損のリスクが避けられるんです」

基本仕掛けは負荷が均等にかかるので、どこで切れるかわからない。最悪は3尾掛りのとき、最も負荷のかかる上バリの接続部分で切れ、掛かったイサキが1尾も取り込めない。対して最強仕掛けは接続の強度を接続部分、ハリの結びと分散しているため、たとえ切られたとしても仕掛けが全損することはない、というわけだ。

最後に鈴木さんからひと言。「時間をかけて苦労して作った仕掛けほど実践で活躍するのです」

最強仕掛けは作製に時間がかかるが、「労多くすれば益多し」、まさに鈴木さんらしい言葉である。



## Challenge #50 鈴木新太郎の仕掛け作り教室

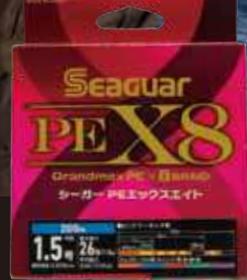
★3本ハリスはタナを探るためだけでなく、多点掛けするためにある、というのが鈴木さんの持論

# イサキ 基本パターンと最強仕掛け

●前回に続いてノットの達人、鈴木新太郎さんの仕掛け作り教室を紹介する。今回はこれからトップシーズンを迎えるイサキ。年々仕掛けは進化して、現在のイサキ仕掛けはほとんどの釣りで1.5号が基本。最大で40センチ級、3本ハリスにパーフェクトもあるイサキに1.5号の細ハリス、鈴木さんの仕掛けは大型や多点掛けにもビクともしないノットの秘訣がある。

# 釣れる釣れる釣れる 釣れる釣れる釣れる

★このサイズの2尾掛けなら基本パターンで対応できるが……



▶イサキ釣りでの道糸は1.5号、信頼のPEX8だ



★イサキ仕掛けは最強シーガーグランドマックス1.5号、1.75号があれば完璧

▶大型イサキの引きは想像以上、だからこそ最強の仕掛けが必要なのだ

鈴木さんのホームグラウンドは外房大原。イサキは当地の代表的な釣り物の一つでもあり、豊富な経験値からくる鈴木さんのテクニック、仕掛け作りに関しては船長たちも一目置くほどだ。イサキの仕掛けは関東周辺のほとんどのエリアでハリス1.5号、3本ハリス、ハリス長3〜3.5メートルで統一されている。これは歴史あるイサキ釣りで確立された結果でもあるが、時として1.5号という細ハリスがネックになる場合がある。

40センチ近い大型がきてハリス切れしたり、3本ハリスにパーフェクトで掛かって幹糸から切れてしまったりはよくあること。鈴木さん自身も長いイサキ釣りの経験の中で、何度もアクシデントに見舞われ、そのたびに仕掛け作りで工夫を凝らしてきた。

こうしてたどり着いた先の結論が、「イサキ釣り最強仕掛け」である。まず鈴木さんの仕掛けシステムから解説しておく。これまでの経験から、仕掛けの長さは勝浦〜御宿沖は全長3メートル

### ★基本パターン

基本パターンとは、大きくても30センチ級、大型ゲストも交じらない、大原沖でいえば初期の仕掛け。もちろん他の釣り場でも通用するし、何より作製時間の短いことがメリットだ。

しいて特長をあげれば、枝スと幹糸の接続。8の字結びにもう1回ヒネリを入れることで、負荷のかかる枝ス接続部分に枕ができて、いくぶん強度が上がる。サルカンの接続は移動結びとすることで端糸が下向き、オマツリ防止となること。

### ★最強仕掛け

この仕掛けは大型のそうとうとき、多点掛けも狙えるとき、大型ゲストなども交じるときに使用する。簡単にいえば編み付け仕掛けだが、これにも鈴木

「自分の取り込み方に合った長さで作ればいいんです。110センチの市販仕掛けが多いんですけど、私の場合は105センチ。わずか5センチの差ですけど、下バりに食ったイサキがスムーズに取り込めるんです」と独特の持論を語る。

トル、大原沖は3メートルとなる。「なぜか長いほうが食うんですよ」

枝間に関してはそれほど気にしない。